

香芝市農業委員会

「楽しい体験」で農業を身近に 小学生と昔ながらの米づくり



もみすりを楽しむ子どもたち

子どもたちが農業への関心を持ち、食材に感謝する気持ちを確認する機会にしようと、昔ながらの道具を用いた体験活動を実施している。

同市では、かしば産業実行委員会の主催で、子どもたちを対象に「かしばのしごと展」を昨年11月26日、同市ふたかみ文化センターで開催。職業体験を通じて社会の仕組みを学べるもので、約500人が体験した。農業委員会も農業分野で何かできないか、農業



農業委員が道具の使い方を説明

【奈良】香芝市農業委員会（縄田多賀司会長）は、農業体験をきっかけに子どもたちが農業への関心を持ち、食材に感謝する気持ちを確認する機会にしようと、昔ながらの道具を用いた体験活動を実施している。

青年委員 奮闘中

▷24

京田辺市 村瀬梓さん

【京都】京田辺市の村瀬梓委員（37）は、3年前から実家の遊休農地を開墾してオーガニック（有機栽培）の野菜生産とSNSでの発信を開始。その活動が注目を集め、農業委員に推薦された。昨年7月に就任した。

表に就任した村瀬委員は、小学校の給食に地元産のオーガニック野菜を納入する活動や食育・農業体験などを行っている。本年度は、中学校給食の開始に伴い新設された給食センターの稼働に対応して、活動団体の法人



①サニーレタスを収穫する村瀬委員、②小学校の給食に子どもたちとオクラを納品

化をめざすなど、新たなステージに挑む計画だ。全国や東海近畿ブロックの輪を全国に広げている。



村瀬委員。「農業委員として、週末農家や家庭菜園農家による荒廃農地の活用など、持続可能な農業の実現に向けて活動したい」と意気込んでいる。



小規模農家の農地活用を応援 オーガニック給食や農業体験推進

近畿

畿

近畿総局 京都府農業会議

京都市上京区出水通油小路東入
丁子風呂町104-2 府庁西別館内
075-441-3660

滋賀県支局
077-523-2439

大阪府支局
06-6941-2701

兵庫県支局
078-339-1122

奈良県支局
074-222-1101

和歌山県支局
073-432-6114

従業員に寄り添った雇用体制を

富田林市ナカスジファーム 育休の取得を後押し

【大阪】富田林市西板町の農地4.5ヘクタールを営むナカスジファームでは、従業員が子どもを育てながら働くための雇用体制を整えている。



中筋さん（左端）と東條さん一家。「今も夫婦交代で休暇を取得するなど、柔軟に働いている」と菜々子さん

従業員が子どもを育てながら働くための雇用体制を整えている。中筋さん（左端）と東條さん一家。「今も夫婦交代で休暇を取得するなど、柔軟に働いている」と菜々子さん

滋賀県でプロジェクト・意見発表大会 次代を担う青年農業者一堂に

【滋賀】次代の県農業を担う青年農業者のプロジェクト発表・意見発表大会がこのほど、公益財団法人滋賀県農林漁業担い手育成基金と滋賀県青年農業者クラブ連絡協議

①サニーレタスを収穫する村瀬委員、②小学校の給食に子どもたちとオクラを納品

プロジェクト発表では、地区大会で選ばれた代表の中から、今後の生産方法や販売に直結する「有機栽培茶園での有機液肥の散布によるてん茶の収量・品質向上効果の検証」を課題として発表した土山町農業後継者クラブが最優秀賞に選ばれた。

表彰式に立つ優秀賞も含めた受賞者の皆さん



また、意見発表では「深清水」深清水 深清水

（中野剛）

県産食品の海外販路拡大へ ハワイで「和歌山フェア」

【和歌山】県や民間企業などで構成する和歌山県農水産物・加工食品輸出促進協議会はこのほど、(株)パン・パシフィック・インターナショナルホールディングスと連携し、米国・ハワイ州で「和歌山フェア」を開催した。県産食品の海外販路拡大がねらいだ。

県と総合ディスプレイストアのドン・キホーテなどを運営するパン・パシフィック・インターナショナルホールディングスが、2021年に相

オアフ島やマウイ島などハワイ各地でフェアを開催

互の協力・連携に係る協定を締結しており、今回のフェアはその一環。4月24日から30日にかけて1店舗、5月14日にかけて7店舗で実施した。県内25の事業者が出展し、柑橘加工品やジュース、梅干しなど約100種類の商品を販売した。同協議会の事務局を担当する県食品流通課の伊佐康平主査は「ハワイでのフェアは今回が2回目。これをきっかけに現地の人に県産食品に興味を持ってもらい、長期的な販路拡大につなげたい」と話した。（田村健伍）



【兵庫】神戸を代表する人気ブランドの「二郎いちご」。神戸市北区の二郎地区で育ち、直売所などでしか購入できない「まぼろしのいちご」と呼ばれている。



がどうの言葉で農業の喜びを知り脱サラを決意。県の楽農生活センターで1年間の研修を受けた。妻と妻の母親との二人三脚で農園を運営。また、長女も手伝ってくれるなど「家族の絆」も深まっている。「来年は、いちご狩りの来園者に楽しんでもら

【兵庫】神戸を代表する人気ブランドの「二郎いちご」。神戸市北区の二郎地区で育ち、直売所などでしか購入できない「まぼろしのいちご」と呼ばれている。この「二郎いちごで地域活性化したい」と話すのは、今年1月に白木農園をオープンした白木馨さん。コロナ禍になり妻の母親が地区で栽培する農園を手伝ったことが、新規就農のきっかけとなったという。これまで大阪でサラリーマンをしていたが「いい出店できれば」とまぼろしいちご狩りのお客さまのあり

できた」と周囲に感謝している。東條さん夫妻は復帰後、農閑期はなるべく他の従業員に休暇を取得してもらえよう、できるだけ出勤することを心がけていた。農業は他業種と比べて勤務時間が変動的になりがちだが、中筋さんは「農業こそフレックスタイトムに向いている」と前向きに捉える。今後は、子どもの成長に伴い、キャリアアップに応じた勤務時間や給与についても検討するなど、従業員に寄り添った雇用体制を模索する。（林佑一郎）

【兵庫】神戸を代表する人気ブランドの「二郎いちご」。神戸市北区の二郎地区で育ち、直売所などでしか購入できない「まぼろしのいちご」と呼ばれている。この「二郎いちごで地域活性化したい」と話すのは、今年1月に白木農園をオープンした白木馨さん。コロナ禍になり妻の母親が地区で栽培する農園を手伝ったことが、新規就農のきっかけとなったという。これまで大阪でサラリーマンをしていたが「いい出店できれば」とまぼろしいちご狩りのお客さまのあり